

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	衛生法規
実務家教員授業	
学部・学科	製菓学科（1年制）
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業コマ数	15コマ
授業概要	「菓子製造業に従事する者の資質を向上させ、もって公衆衛生の向上および増進に寄与する」という法の目的を達成すべく食品に関する法規・法令について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師試験に対応できる衛生法規の知識の習得を目指す。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 法学大意 2 衛生行政概説① 3 衛生行政概説② 4 製菓衛生師法 5 関係法令 食品安全基本法 6 関係法令 食品衛生法① 7 関係法令 食品衛生法② 8 関係法令 食品衛生法③ 9 関係法令 食品衛生法④ 10 関係法令 食品安全基本法、食育基本法 11 関係法令 地域保健法、調理師法、健康増進法、栄養士法、環境法 12 関係法令 健康増進法、消費者庁及び消費者委員会設置法 13 問題演習① 14 問題演習② 15 問題演習③ 定例試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験および効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	公衆衛生学
実務家教員授業	
学部・学科	製菓学科（1年制）
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	公衆衛生概論で、公衆衛生の意義、公衆衛生の現状、衛生統計について学習する。人類が快適な生活環境を保全、維持するためには、それらに影響を与える、水、土壌、空気からなる自然ならびに人為的環境について、環境衛生の意義、環境と健康、生活環境、公害などについての基礎知識が必要である。食中毒、感染症や生活習慣病などの疾病の予防、労働と健康、安全衛生管理についても理解し、特に製菓衛生師試験に出題された内容に関連した事項を重点的に学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師に欠くことのできない専門知識である公衆学の確実な習得を目指し、製菓衛生師試験に合格する知識を身につける。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の概要と意義・歴史① 2 公衆衛生の概要と意義・歴史② 3 公衆衛生の現状① 4 公衆衛生の現状② 5 公衆衛生行政と保健所 6 衛生統計・統計指標 7 環境衛生① 8 環境衛生② 9 環境衛生③ 10 環境衛生④ 11 環境衛生⑤ 12 環境衛生⑥ 13 環境衛生⑦ 14 疾病の予防① 15 疾病の予防② 16 疾病の予防③ 17 疾病の予防④ 18 疾病の予防⑤ 19 生活習慣病の予防 循環器疾患・脳血管疾患① 20 生活習慣病の予防 循環器疾患・脳血管疾患② 21 生活習慣病の予防 循環器疾患・脳血管疾患③ 22 生活習慣病の予防 循環器疾患・脳血管疾患④ 23 生活習慣病の予防 循環器疾患・脳血管疾患⑤ 24 生活習慣病の予防 循環器疾患・脳血管疾患⑥ 25 職業病① 26 職業病② 27 職業病③ 28 保健① 29 保健② 30 筆記試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験および効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	食品学
実務家教員授業	
学部・学科	製菓学科（1年制）
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	人は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みに基本的にかかわりあう重要なものであり、本講義では、製菓衛生師に必要とされる食品に関する基本的な知識を学ぶ。食品学の分野において製菓衛生師に必要な基本的知識を学ぶ。食品の変質とその機構の化学、食品の生産と消費、流通といった食品の経済について学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師試験に対応できる食品学の知識の習得を目指す。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 食品学とは、食品の種類と成分 2 食品の成分と性質 3 食品の色素成分 4 食品の嗜好成分 5 有害物質・食品成分表 6 植物性食品（米について、食品成分表） 7 植物性食品（麦類について） 8 植物性食品（いも、豆類） 9 植物性食品（豆類・種実類） 10 植物性食品（野菜類） 11 植物性食品（果物、きのこ、海藻） 12 植物性食品（植物性食品まとめ） 13 動物性食品（魚類） 14 動物性食品（食肉について） 15 卵類、乳類（卵、乳類について） 16 卵類、乳類（乳類の種類と特徴） 17 油脂類（油脂について） 18 油脂類（調味料、加工品） 19 嗜好品 20 食品の保存（食品の変質）① 21 食品の保存（食品の変質）② 22 食品の生産と消費（食糧の消費について） 23 食品の生産と消費 24 食品の生産と消費（食品生産と自給率） 25 食品の保存方法（有機農産物）① 26 食品の保存方法（有機農産物）② 27 全体まとめ 28 過去問解説① 29 過去問解説② 30 筆記試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験および効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	食品衛生学
実務家教員授業	
学部・学科	製菓学科（1年制）
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	120時間
授業コマ数	60コマ
授業概要	食品衛生の目的は飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止することにあるが、食中毒についての概要、病因物質と予防対策について学ぶ。また、安全な食品の人手には食品の製造、加工、保存、運搬などの各過程で衛生的取り扱いが求められ、有害食品の排除、食品添加物や天然香料の指定や制限、器具や容器包装の安全性確保、適切な使用原材料の表示などが必要となるため、食品衛生学概論と食品添加物についても学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	食中毒の発生メカニズムを知ることにより、人に対する食の安全を提供するうえでの基本的知識や食品を扱う者にとっての食品衛生の意義、食品添加物についての知識を習得し、製菓衛生師試験合格レベルに達する。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 食品衛生学とは 2 食品衛生学の歴史 3 食中毒の発生 4 微生物の種類 5 食中毒（微生物の種類と特徴） 6 食中毒（微生物）① 7 食中毒（微生物）② 8 食中毒（微生物）③ 9 食中毒（微生物）④ 10 食中毒（ノロウイルス）① 11 食中毒（ノロウイルス）② 12 食中毒（化学物質） 13 食中毒（自然毒）① 14 食中毒（自然毒）② 15 食中毒（寄生虫） 16 食中毒（菓子と食中毒） 17 食中毒（食中毒全体復習）① 18 食中毒（食中毒全体復習）② 19 食中毒（食中毒予防） 20 食品添加物① 21 食品添加物② 22 食品添加物③ 23 食品添加物④ 24 食品添加物⑤ 25 食品中の有害物質（生物濃縮と食物連鎖）① 26 食品中の有害物質（生物濃縮と食物連鎖）② 27 食品中の有害物質（食品中の有害物質） 28 食品中の有害物質（ダイオキシン、農業） 29 食品中の有害物質（農業、飼料添加物） 30 食品中の有害物質（食品中の異物）① 31 食品中の有害物質（食品中の異物）② 32 施設の構造、食品の取り扱い（食品の取扱）① 33 施設の構造、食品の取り扱い（食品の取扱）② 34 施設の構造、食品の取り扱い（食品の取扱者の衛生）

授業計画	35 消毒、殺菌（洗浄と消毒） 36 消毒、殺菌（消毒方法）① 37 消毒、殺菌（消毒方法）② 38 食品の保存（施設設備の要件と管理）① 39 食品の保存（施設設備の要件と管理）② 40 HACCP① 41 HACCP② 42 食品添加物の指定と規格基準① 43 食品添加物の指定と規格基準② 44 食品添加物の指定と規格基準③ 45 食品表示 46 実習（ブドウ球菌実験）① 47 実習（ブドウ球菌実験）② 48 実習（カビの実験）① 49 実習（カビの実験）② 50 実習（カビ、ブドウ球菌の経過観察） 51 実習（卵の鮮度判定） 52 実習（卵のレポート作成） 53 実習（食中毒について事例検討）① 54 実習（食中毒について事例検討）② 55 実習（遊離残優塩素の実験）① 56 実習（遊離残優塩素の実験）② 57 実習（食品添加物を調べる） 58 全体まとめ 59 全体まとめ 60 筆記試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験および効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	栄養学
実務家教員授業	
学部・学科	製菓学科（2年制）
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	栄養学の基礎として各種栄養素の働きと消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学ぶ。ライフステージ) 必要な栄養の取り方を学び、病態別の栄養管理などについても学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師に必要な栄養学の基礎知識を習得する。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養学とは 2 栄養素の分類① 3 栄養素の分類② 4 栄養素の分類③ 5 栄養素の分類④ 6 栄養素の分類⑤ 7 栄養素の分類⑥ 8 栄養素の分類⑦ 9 栄養素の分類⑧ 10 基礎食品、食事バランスガイド 11 ホルモン 12 消化と吸収① 13 消化と吸収② 14 消化と吸収③ 15 消化と吸収④ 16 エネルギー代謝 17 食事摂取基準 18 ライフステージの栄養① 19 ライフステージの栄養② 20 ライフステージの栄養③ 21 ライフステージの栄養④ 22 食生活と疾病① 23 食生活と疾病② 24 栄養成分表示① 25 栄養成分表示② 26 保健機能食品 27 特別用途食品 28 全体まとめ 29 全体まとめ 30 筆記試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験および効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	社会	
実務家教員授業		
学部・学科	製菓学科（1年制）	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	30時間	
授業コマ数	15コマ	
授業概要	菓子が現代において、いかに生活に密接に関係しているか理解し、菓子の現代生活における重要性を理解する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。	
達成目標	製菓衛生師として必要な現代の菓子についての基本知識を身につける。	
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」	
特記		
授業計画	1	菓子と食生活
	2	菓子の歴史・パンの歴史
	3	菓子製造の要件
	4	菓子の生産と消費
	5	菓子の包装
	6	菓子店経営論
	7	経営者の責務
	8	立地条件および市場調査
	9	販売促進のあり方
	10	店舗のつくり方
	11	労働生産性
	12	必要売上高の求め方
	13	原価管理の方法
	14	労務管理
	15	問題演習・定期試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験および効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価	
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	製菓理論
実務家教員授業	○
学部・学科	製菓学科(1年制)
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	90時間
授業コマ数	45コマ
授業概要	製菓衛生師による講義。製菓材料の基礎知識、加工特性を習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師受験資格取得に必要な講義を行い、資格取得を目指す。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 製菓理論 製菓衛生師とは 2 製菓理論 製菓理論を学ぶ意義 3 製菓理論 菓子の分類 4 菓子の原材料 甘味料(甘味料分類) 5 菓子の原材料 甘味料(でん粉糖) 6 菓子の原材料 甘味料(非糖質甘味料) 7 菓子の原材料 小麦粉(用途別分類、品位別分類) 8 菓子の原材料 小麦粉(小麦粉の加工適性) 9 菓子の原材料 でん粉(種類と特徴、地上でん粉、地下でん粉) 10 菓子の原材料 でん粉(加工適性、糊化、老化、粘度特性) 11 菓子の原材料 でん粉(加工適性、膨化性、吸湿性) 12 菓子の原材料 米粉(もち種が原料の米粉、うるち種が原料の米粉) 13 菓子の原材料 米粉(米粉まとめ) 14 甘味料、小麦粉、でん粉、米粉まとめ 15 菓子の原材料 鶏卵① 16 菓子の原材料 鶏卵② 17 菓子の原材料 鶏卵③ 18 菓子の原材料 鶏卵④ 19 菓子の原材料 油脂(種類と特徴) 20 菓子の原材料 油脂(油脂の加工適正) 21 菓子の原材料 油脂 22 菓子の原材料 牛乳及び乳製品(牛乳について、牛乳及び乳製品、粉乳、練乳について) 23 菓子の原材料 牛乳及び乳製品(チーズ、その他について) 24 菓子の原材料 チョコレート(チョコレートとは) 25 菓子の原材料 チョコレート(ココアバター、ココアパウダーについて) 26 菓子の原材料 チョコレート(純チョコレート、チョコレート、準チョコレートの違い) 27 菓子の原材料 チョコレート(加工適性について 香味・物性・ブルーム) 28 菓子の原材料 チョコレート 29 鶏卵 油脂 牛乳及び乳製品 原料チョコレートまとめ 30 菓子の原材料 果実及び果実加工品① 31 菓子の原材料 果実及び果実加工品② 32 菓子の原材料 凝固材料(寒天、カラギーナンについて) 33 菓子の原材料 凝固材料(ペクチン ゲル化について) 34 菓子の原材料 種実類(ナッツ類) 35 菓子の原材料 種実類(ナッツ類) 36 菓子の原材料 風味・調味材料(酒類)

授業計画	37 菓子の原材料 風味・調味材料（香料） 38 果実及び果実加工品 凝固材料 種実類 風味・調味材料まとめ 39 補助材料（パン酵母（イースト）について） 40 補助材料（食塩について、水、モルトエキスについて） 41 補助材料（製パン改良剤について） 42 補助材料（膨脹剤について 種類と特性、乳化剤について 種類と特性） 43 補助材料（着色料について、増粘安定剤について） 44 過去問解説① 45 過去問解説②
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	基礎実習 (和菓子)
実務家教員授業	○
学部・学科	製菓学科 (1年制)
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	製菓衛生師による実習。洋菓子・和菓子・製パンの基礎知識と技術を習得する。
授業の進め方	各種実習を通じて、基本知識の習得や技能の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師全書に記載されている「製菓衛生師養成施設製菓実習実技試験ガイドライン」の内容で60点以上の成績を修める。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 蒸し菓子 柏餅 (こし餡) 2 蒸し菓子 桜餅 3 蒸し菓子 菓饅頭・黄身時雨 4 蒸し菓子 上用饅頭 5 製餡・流し菓子 こしあん・水羊羹 6 干菓子 雲平 7 製餡 つぶ餡 8 焼き菓子 (平鍋) どら焼き① 9 焼き菓子 (平鍋) どら焼き② 10 蒸し菓子 浮島・赤飯 11 蒸し菓子 栗蒸し羊羹 12 焼き菓子 栗饅頭 13 焼き菓子 桃山 14 練り物 うぐいす餅 15 練り物 練り切り 16 蒸し菓子 串団子 (みたらし) 17 蒸し菓子 柏餅 (みそ餡)・桜餅 18 蒸し菓子 菓饅頭・黄身時雨 19 蒸し菓子 上用饅頭 20 製餡・流し菓子 こしあん・水羊羹 21 干菓子 雲平 22 製餡 つぶ餡 23 焼き菓子 (平鍋) どら焼き・調布① 24 焼き菓子 (平鍋) どら焼き・調布② 25 蒸し菓子 浮島 26 蒸し菓子 赤飯 27 蒸し菓子 栗蒸し羊羹 28 テスト 黄身時雨テスト 29 練り物 うぐいす餅・練り切り① 30 練り物 うぐいす餅・練り切り②
成績評価方法 (試験実施方法)	実技による効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	基礎実習 (洋菓子)
実務家教員授業	○
学部・学科	製菓学科 (1年制)
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	製菓衛生師による実習。洋菓子の基礎知識と技術を習得する。
授業の進め方	各種実習を通じて、基本知識の習得や技能の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師全書に記載されている「製菓衛生師養成施設製菓実習実技試験ガイドライン」の内容で60点以上の成績を修める。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クリーム類 実習室のルール 2 クリーム類 実習器具使い方 3 クリーム類 ジェノワーズ① 4 クリーム類 絞り 5 クリーム類 ジェノワーズ② 6 クリーム類 絞り① 7 焼き菓子 ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール① 8 クリーム類 絞り② 9 焼き菓子 ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール② 10 焼き菓子 ジェノワーズ③ 11 焼き菓子 クレームオブールイタリエンヌ 12 焼き菓子 ナッペ 13 焼き菓子 ジェノワーズテスト 14 焼き菓子 絞りテスト 15 クリーム類 クレームオブール3種 16 クリーム類 パイピング 17 焼き菓子 シュクレ・クレームダイヤモンド 18 焼き菓子 フォンサージュ (マジパン) 19 クリーム類 クレームパティシエール 20 クリーム類 タルトフリュイ 21 焼き菓子 ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール 22 焼き菓子 メレンゲ3種 23 焼き菓子 ビスキュイ・ア・ラ・キュイエールテスト 24 焼き菓子 バヴァロアパニーユ (シャルロット) 25 焼き菓子 バターケーキ 26 焼き菓子 バンドジェンヌ・シュクレ 27 焼き菓子 クレームダイヤモンド 28 焼き菓子 フォンサージュ 29 焼き菓子 クレームパティシエール 30 テスト タルトフリュイテスト
成績評価方法 (試験実施方法)	実技による効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	基礎実習 (製パン)
実務家教員授業	○
学部・学科	製菓学科 (1年制)
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	60時間
授業コマ数	30コマ
授業概要	製菓衛生師による実習。洋菓子・和菓子・製パンの基礎知識と技術を習得する。
授業の進め方	各種実習を通じて、基本知識の習得や技能の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師全書に記載されている「製菓衛生師養成施設製菓実習実技試験ガイドライン」の内容で60点以上の成績を修める。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ロールパン類 (手捏ね) パンの定義・手捏ねの解説 2 ロールパン類 (手捏ね) バターロール 3 ロールパン類 (手捏ね) 塩ぱん 4 菓子パン類 (手捏ね) つぶあんパン 5 菓子パン類 (手捏ね) メロンパン 6 菓子パン類 (手捏ね) メロンビス生地 7 食パン類 レーズンブレット 8 食パン類 パン・オ・ノア① 9 食パン類 パン・オ・ノア② 10 ミルクのパン類 パンオレ 11 ミルクのパン類 パンオレ (クリームパティシエール) 12 ミルクのパン類 ミルクハース 13 セミハード類 ベーグル (クリームチーズ) 14 セミハード類 イングリッシュマフィン 15 セミハード類 サンドイッチ 16 その他のパン カレーパン、ピロシキ 17 その他のパン カレーパンフィリング、ピロシキフィリング 18 その他のパン イーストドーナツ 19 フランスのパン フランスパン (直捏法) 20 フランスのパン ベーコン・エビ、パンファンテジー 21 フランスのパン タルトフランベ 22 フランスのパン プリオッシュタルト 23 フランスのパン クリームチーズフィリング 24 フランスのパン ラングドブッフ 25 ロールパン類 (手捏ね) バターロール① 26 ロールパン類 (手捏ね) バターロール② 27 その他のパン シュトーレン 28 テスト バターロール (手捏ね) ① 29 テスト バターロール (手捏ね) ② 30 ロールパン類 ハムタマゴロール
成績評価方法 (試験実施方法)	実技による効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	専門実習
実務家教員授業	○
学部・学科	製菓学科(1年制)
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	300時間
授業コマ数	150コマ
授業概要	製菓衛生師による実習。洋菓子・製パンの応用技術を習得する。
授業の進め方	各種実習を通じて、基本知識の習得や技能の定着を図る。
達成目標	製菓衛生師全書に記載されている「製菓衛生師養成施設製菓実習実技試験ガイドライン」の内容で60点以上の成績を修める。
教科書	日本菓子教育センター「製菓衛生師全書」「製菓衛生師・菓子製造技能検定受験練習問題と解答」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎実習(反復) ナッペ、絞り練習 2 焼き菓子 メレンゲ① 3 焼き菓子 メレンゲ② 4 焼き菓子デザート菓子 クレームブリュレ 5 焼き菓子デザート菓子 カスタードプディング① 6 焼き菓子デザート菓子 カスタードプディング② 7 焼き菓子 パウンドケーキ 8 焼き菓子 マドレーヌ 9 焼き菓子 フィナンシェ 10 焼き菓子 ロールケーキ 別立て、共立て 11 クリーム類 クレームシャンティイ 12 クリーム類 クレーム・オ・ブル・カフェ 13 焼き菓子 ビスキュイショコラ① 14 焼き菓子 ビスキュイショコラ② 15 クリーム類 シャンティイショコラ 16 テスト ロールケーキ 共立てテスト① 17 テスト ロールケーキ 共立てテスト② 18 クリーム類 クレームシャンティイ 19 焼き菓子 クッキー サブレ(のばし生地) 20 焼き菓子 フルーツクッキー(アイスボックス) 21 焼き菓子 ザントケッベク(絞り生地) 22 焼き菓子 シュー 23 クリーム類 クレームパティシエール 24 焼き菓子クリーム類 シュー・ア・ラ・クレーム 25 焼き菓子 パータフォンセ・オーディネール 26 焼き菓子 パートブリゼ、パートシュクレ 27 クリーム類 クレームダイヤモンド 28 焼き菓子 キッシュロレーヌ① 29 焼き菓子 キッシュロレーヌ② 30 焼き菓子 タルトアプリコまたはポワール 31 焼き菓子 タルトショコラ① 32 焼き菓子 タルトショコラ② 33 焼き菓子 タルトレットショコラ 34 焼き菓子 フィユタージュ 35 焼き菓子 三つ折り1回4つ折り1回 36 焼き菓子 アリュメットオボンム

授業計画	37	専門実習 (反復) フィユタージュ
	38	専門実習 (反復) 三つ折り1回4つ折り1回
	39	焼き菓子クリーム類 ミルフィーユ
	40	専門実習 (反復) シュー・ア・ラ・クレーム
	41	焼き菓子クリーム類 エクレア
	42	焼き菓子 ポンヌフ(フィユタージュは冷凍の残りを使用)
	43	揚げ菓子 アメリカンドーナツ
	44	揚げ菓子 フレンチドーナツ
	45	揚げ菓子 イングリッシュドーナツ
	46	コンフィズリー ショコラ テンパリング(水冷)
	47	コンフィズリー 3cm正方形のチョコレートプレート
	48	コンフィズリー ショコラ テンパリング(タブリール法)
	49	コンフィズリー ショコラ テンパリング (フレック法)
	50	コンフィズリー ガナッシュ・オ・ロム
	51	コンフィズリー 生チョコ
	52	コンフィズリー チョコ仕上げ
	53	コンフィズリー 3cm正方形のチョコレートプレート
	54	テスト 3cm正方形のチョコレートプレート
	55	コンフィズリー マジパン①
	56	コンフィズリー マジパン②
	57	コンフィズリー マジパン③
	58	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ①
	59	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ②
	60	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ③
	61	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ④
	62	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑤
	63	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑥
	64	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑦
	65	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑧
	66	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑨
	67	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑩
	68	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑪
	69	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑫
	70	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑬
	71	コンテスト対策 クリスマスロールケーキ⑭
	72	学内コンテスト クリスマスロールケーキ①
	73	学内コンテスト クリスマスロールケーキ②
	74	専門実習 (反復) フィユタージュ仕込み
	75	専門実習 (反復) 4つ折り3つ折り
	76	専門実習 (反復) ミルフィーユ
	77	基礎実習 (反復) クレームパティシエール
	78	専門実習 (反復) クレームシャンティ
	79	専門実習 (反復) フィユタージュ折り込み
	80	基礎実習 (反復) クレームダイヤモンド
	81	焼き菓子 ガレットデロア
	82	焼き菓子クリーム類 ポワソンダブリル
	83	専門実習 (反復) エクレールショコラ
	84	基礎実習 (反復) ポンヌフ(フィユタージュは冷凍の残りを使用)
85	基礎実習 (反復) クレームパティシエール	
86	専門実習 (反復) パートブリゼ、クレームダイヤモンド	
87	焼き菓子 コンベルサシオン①	
88	焼き菓子 コンベルサシオン②	
89	デザート菓子 ジュレドヴァンルージュ	
90	デザート菓子 コンポートポワール	
91	焼き菓子 ジョコンド	
92	基礎実習 (反復) ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール	
93	デザート菓子 ムース・オ・カシス	
94	基礎実習 (反復) ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール	
95	専門実習 (反復) ムース・オ・カシス	

授業計画	96	コンフィズリー ガナッシュ・オ・ロム
	97	コンフィズリー 生チョコ
	98	専門実習 (反復) チョコレート (テンパリング3種)
	99	専門実習 (反復) 生チョコ・ガナッシュ・オ・ロム
	100	専門実習 (反復) エクレールショコラ
	101	専門実習 (反復) ジェノワーズ
	102	焼き菓子クリーム類 ガトーフレーズ (苺の出回る時期)
	103	専門実習 (反復) パイピング
	104	コンフィズリー コンフィチュール下準備
	105	コンフィズリー コンフィチュールフレーズ
	106	コンフィズリー コンフィチュールかんきつ系 (2月)
	107	デザート菓子 シャルロットオーポワール
	108	基礎実習 (反復) ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール
	109	専門実習 (反復) ムース・オ・ポワール
	110	専門実習 (反復) ビスキュイ・ア・ラ・キュイエール (マーガレット)
	111	専門実習 (反復) ジェノワーズ
	112	専門実習 (反復) ガトーフレーズ (苺の出回る時期)
	113	基礎実習 (反復) ババロア・ア・ラ・ヴァニユ
	114	焼き菓子 フルーツパウンドケーキ
	115	基礎実習 (反復) バンドジェーヌ
	116	専門実習 (反復) クッキー サブレ (のぼし生地)
	117	専門実習 (反復) フルーツクッキー (アイスボックス)
	118	テスト ザントケベック (絞り生地)
	119	焼き菓子 マカロン・ラングドシャ
	120	専門実習 (反復) シュクレ、フィユタージュ
	121	デザート菓子 ワインゼリー、レモンゼリー
	122	テスト シュー・ア・ラ・クレーム①
	123	テスト シュー・ア・ラ・クレーム②
	124	専門実習 (反復) メレンゲ3種
	125	専門実習 (反復) パイピング練習
	126	専門実習 (反復) フィユタージュ仕込み (折り込み2回)
	127	専門実習 (反復) フィユタージュ折り込み
	128	焼き菓子 ボワッソンドブリール (苺)
	129	基礎実習 (反復) クレームパティシエール
130	テスト ガトーフレーズ①	
131	テスト ガトーフレーズ②	
132	テスト ガトーフレーズ③	
133	焼き菓子 シフォンケーキ①	
134	焼き菓子 シフォンケーキ②	
135	焼き菓子 シフォンケーキ③	
136	製パン 全粒粉のパン パンコンプレ	
137	製パン 全粒粉のパン パンコンプレ	
138	製パン 全粒粉のパン パンペイザン (小物)	
139	製パン ドイツのパン① プレッツェル	
140	製パン ドイツのパン① カイザーゼンメル	
141	製パン ドイツのパン① ベルリーナラントブロート	
142	製パン ドイツのパン② ローゼンゼンブロート	
143	製パン ドイツのパン② ヴァイツェンミッシュブロート、タルティーヌ	
144	製パン ドイツのパン② ザルツシュタンゲン	
145	製パン 折り込み生地 クロワッサン、パン・オ・ショコラ	
146	製パン セミハード類 セミフランス (パリパリチーズ)	
147	製パン セミハード類 めんたいボード	
148	製パン 折り込み生地 クロワッサン	
149	製パン 折り込み生地 パン・オ・ショコラ	
150	製パン 折り込み生地 クロワッサン・オ・ザマンド	
成績評価方法 (試験実施方法)	実技による効果測定の結果を軸に、授業への参加姿勢を含め総合的に評価	
備考	出席が2/3に満たない場合は、不足する時間数に相当する補講に参加し、課題を提出しなければ試験を受験できないものとする。授業順序は変更する場合がある。	